

増林在住の『あの人、この人』と題し 『昔日の思い出』出

今回は永年保護司として活躍され勲五等瑞寶章を受章されました豊田宗一さん(昭和二年九月十日生れ 七十七歳)に投稿をお願い致しました。



豊田宗一

広報部役員さんの投稿依頼に応えるべくペンを取り、さて何を書こうかと迷い、ふと、子供の頃を思い出す。十年ひ

と昔の時代から今は、一年ひと昔の感がある。私の小学校時代七十年も前だが、現在の体育館・野球場・ゆりのき荘辺りは広大な田圃、そこに冬ともなると雁の群れが数百羽も舞い降り落穂を啄んでいた。「あれを追っとばしてこい！」と、上級生の餓鬼大将に面白半分にけしかけられ、小堀の中を泥んこになつて追つたものだが、今では雁の飛んでいるのも見たことがない。

公民館発足は何時頃かな…？ 終戦後の民主化の先駆けて現自治会長は分館長と呼んだ時もあった。従来行われていた二月のお正月が一月になったのもこの頃と記憶している。当時は青年団活動も活発で、団員も数百人男女ほぼ同数を数える。当時は産めよ増やせよの時代、どこの家でも五・六人は普通、中には一ダースの子沢山もあつ

たけ。農業以外の産業や職場も少なく食糧増産の国策に躍らされ、労働力の一助となる。青年団事業活動の運動会、その一種目に仮装行列を加えた事もある。物も経験も無いまま工夫をこらし、男が女に、女が男に変装し、また中には原始人を真似て全身真っ黒に煤を塗り、頭には、赤・青・黄色とりどりの布を巻き、腰には腰蓑を巻き、竹槍を振りかざし数十人が練り歩く。良くぞやつたと今思い出し苦笑せざるを得ない。その後、町村合併論が浮上、賛否両論の増林村議会開催の中、青年団員数十名が押しかけ、賛成派に拍車をかけた思い出が残る。間もなく町となり現越谷市へと進んだ。また青年学級が開講される。講師は中学の先生方、当時英語は、敵国語として禁止、簡単なABC、ローマ字の常識問題等を勉強する。NHKラジオ放送「青年学級の友へ」と題して電波に乗った事もある。また公民館事業の産業部で地区内全域の地場産業発展の共進会が度々行われた。一例が茄子、漬菜、苗代の競争などがあつた。審査の一員として数回参加させられたが花田地区の金子さんの例年の野菜の見事な出来栄が今も記憶に残っている。

喜寿の爺、あと何年は考えず、
今昔を思い出してペンを置く。